



## 生ける“神の宮”を現す“手紙”

Ⅱコリント 6・14-7・1 (要旨)

説教者 原田憲夫

5月から、「キリストの手紙」としての私たちの役目について思い巡らしています。今日の「鍵の語=キーワード」は6章16節の「神の宮」です。今日から教会礼拝堂での礼拝再開(段階的)という感謝なことと重ね合わせながらみことばを心に思い巡らしましょう。

### ○Ⅱコリント 6・16

神の宮と偶像に何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神がこう言われるとおりにです。

わたしは彼らの間に住み、また歩む。

わたしは彼らの神となり、

彼らはわたしの民となる。

### 【1】私たちは「生ける神の宮」(16)

「私たちは神の宮」・・・不思議な言い回し。

旧約聖書で「神の宮」は「主の名を置く家」と言われています。イスラエルの王ソロモンがエルサレムに神殿を建てた時の言葉です(Ⅰ列8・16)。ソロモン王はわきまえていました。いかに豪華な神殿を建ててもその中に万物の創造者-神を入れることなどできないことを。

#### \*ソロモンの祈り

「あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天においてこれを聞いてください。聞いて、お赦してください。」(Ⅰ列8・30)

「神の宮」は-神の御名のもとに集まり、神を賛美し、祈り、神のみおしえに耳を傾ける-神の臨在を覚える魂の場所でした。

私たちキリスト教会は日本人に馴染みのある「宮」「神殿」という用語を、教会堂-建物/施設を指して使いません。ところが、「キリストを信じる者たち」を「神の宮」と呼ぶのです。キリストの十字架による罪の贖いを信じ、その復活を信じ、神の民として歩む私たち信者-教会を「神の宮」また「神の神殿」と呼ぶのです。

ですから、コリントの人々の間でみられたような分裂分派は、「神の宮」である自らを破壊する最も愚かな行為になります。

私たちは「生ける神の宮」なのです！

### 【2】「神の宮」を満たす-聖霊-

今日、再開されたこの礼拝堂でささげるものはあのソロモンの祈りに通じているでしょうか。

すなわち、「天の御住まいで受け入れてくださる」神に向かって、「神に喜ばれる霊のいけにえ」を、主イエス・キリストを通してささげるために、今日、この礼拝堂にいますでしょうか？

▷「神の宮」を満たすのは「神の霊」です(Ⅰコリント 3・16)。聖霊によってキリストを救い主、主と信じ、新生した私たちの中に聖霊が宿っている「聖霊の宮」だからです(Ⅰコリント 6・19)。

▷「神の宮」は、もっぱら神の栄光を賛美することがその存在目的です。

「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。」(Ⅰコリント 6・20)

### 【勧め】

●Ⅱコリント 7・1 「・・・肉と霊の一切の汚れから自分をきよめ、神を恐れつつ聖さを全うしようではありませんか。」

十字架のキリストにあってはじめて汚れをきれいにしていただけます。

今日、再開された礼拝堂で礼拝をささげられる喜びを噛みしめながら、しかしだからこそ、改めて前奏から後奏に至るすべてが、「天の御住まいで受け入れてくださる神に喜ばれる霊のいけにえ」となることを願います。

▷賛美も祈りも、みことばに傾ける耳も、ささげる献金も「神に喜ばれる霊のいけにえ」となりますように！

▷私たちキリストを信じる一人一人は、そしてキリスト教会は、いよいよこの時代、この地域、私たちの居る場所で、「生ける神の宮」として全存在をかけて神の栄光を現すことができますように！

そして「キリストの手紙」として、それぞれの家族に、隣人に、地域の方々に読まれますように！